

菊池川流域の米作りの曙

ほぼ全国的に米作りが行われるようになった弥生時代。熊本県北部の菊池川流域では、水を引きやすい川沿いの平坦な土地で米作りを始めた。その後、鉄製農具を利用して生産性を高め、米作りで豊かな土地となっていく。こうした豊かさが、豪華な副葬品が出土した「江田船山古墳」や絵画などの装飾が施された「チブサン古墳」など、多彩で豊かな文化の誕生につながり、やがて高い技術力に支えられた菊池川流域の米作りの文化が幕を開けることとなる。

二千年にわたる米作りの開墾の歴史

菊池川流域は、阿蘇外輪山の菊池溪谷を源とする清らかでミネラル豊富な水に恵まれた地域である。約二千年前、最初は小さな水田から始まった米作りだったが、灌漑技術の導入により、8世紀頃から大規模な土地区画制度である「条里制」が全国各地に敷かれると、古代、菊池川流域の平地では一区画約1ha(10,000㎡)の水田が整備された。また、大和朝廷は米の豊かなこの土地の高台に古代山城「鞠智城」を築き、米倉を建てて軍事補給基地としての機能をもたせた。条里制の地割は時代が移り変わる中でも大きな改良を必要とせず、鞠智城跡を訪れると、碁盤状にきれいに区画された千年以上続く田園風景を一望できる。

中世以降、山間では、溜め池造成や水路建設などの農業土木技術の向上によって、菊池川流域でも井手(用水路)が整備され、それまで水が届かなかった高台を水田に変えた。江戸時代になると測量技術や土木技術が更に向上し、各地に長距離の井手が通された。全長11kmの「原井手」は、延べ454mものマブ(水路トンネル)を手作業で穿ち、水田を作るのが難しかった山地に棚田を拓き、米作りを可能にした。「原井手」は300年以上経った今も現役で、地域の棚田を潤している。番所地区の棚田は、急峻な山の斜面を切り拓き石積みを組んだもので、山里の自然や古い屋並みと調和した農村景観と共に代々守り続けられている。

近世、海辺では、築堤や樋門建設の技術が発達し、戦国武将加藤清正以来、干拓事業が続けられてきた。菊池川河口には広大な干潟があり、堤防を築いて潮止めすることで耕作地を開くことができた。この開発は藩主が細川家に替わってから引き継がれ、その規模は年を追うごとに大きくなった。明治時代中頃には高さ3~6m

の石積みが長さ5.2kmにも及ぶ、当時国内最大級の「旧玉名干拓施設」の堤防が築かれ、最終的には面積3,000haの耕作地が海から誕生した。この堤防は、台風や潮害などの自然災害と闘いながら耕作地を広げてきた歴史を今に伝えている。

近代に入ると菊池川沿いの沼地では、菊池市出身の農業技術者、富田甚平が私財をなげうって収穫期にも水が抜けなかった湿田を乾田に変える暗渠排水技術を開発した。同時に湿田から抜いた水を水田に活用する技術を開発して日照り対策も行い、この技術を全国に広めていった。



阿蘇外輪山・菊池溪谷



平地：千年続く条里制跡の風景



山間：山鹿・番所の棚田



海辺：5.2km連なる旧玉名干拓施設の一部

菊池川流域の米作りの営みがもたらした豊かな文化

菊池川は水田を潤すだけでなく、米の輸送にも欠かせないものだった。11世紀頃から450年にわたる歴史の中で一時は九州を平定した菊池一族は、菊池川の水運を巧みに利用して財を成し、安定した統治を行うことで米作りの発展に寄与した。江戸時代に入ると、菊池川の水運はますます重要となった。菊池川を下ると石垣で整備された「高瀬船着場跡」が見えてくる。菊池川流域の年貢米を集め、「俵ころがし」という石畳の斜面を使って船に米俵を載せ、大坂などに運んだ。

江戸時代、菊池川の舟着場と「豊前街道」が交差した山鹿湯町は、米問屋や糶屋、造り酒屋、米菓子屋など米を扱う商店が軒を連ね、活況を呈した。今でも酒蔵や麴屋などが商いを続けており、これらの町並みは訪れる人を楽しませている。また米問屋や造酒屋などで財を成した商人達が出資して建てられた明治期の芝居小屋「八千代座」も、当時の賑わいに負けず、今も多くの歌舞伎役者や地元の人々に愛されており、往時の風情を堪能することができる。

菊池川流域では、田の神に豊作を祈るための様々な祭りや風習が守り継いでこられた。五穀豊穰を祈る踊りや降雨を祈る舞、穂が強風で倒れないように願った祭りなどが、今も多く継承されている。

また、この地方に伝わる食事の中には、菊池川が流れこむ有明海で採れた新鮮なこのしろにすし飯を詰めた「このしろの丸ずし」や菊池川で獲れたモクズガニのみそが溶け込んだ「ガネめし」など、地域の食材と混ぜ合わせた米どころならではの料理が残っている。

この地方の伝統的な酒「赤酒」^{あかざけ}は、保存のために草木を焼いた灰を入れることで酒の色が変化し、その名のごとく赤色をした酒である。甘みが強く、江戸時代は藩の酒として、幕府へ献上していた。地元では祭りや祝い事で飲まれていたが、現在は正月のお屠蘇^{とろそ}として欠かせないものとなっている。

古代から脈々と続けられてきた米作りの営みは、江戸時代には「天下第一の米」と呼ばれる肥後米の中心産地として発展していった。將軍の御供米^{おごころめ}（神仏に捧げるお米）にはこのお米が用いられ、大坂では千両役者や横綱へのお祝い米として「肥後米進上」という立札をつけて贈られるほどだった。菊池川流域は、現代でも全国で最高位の評価を受け続ける、日本有数の米どころである。

このように菊池川流域には、平地には古代の条里、山間には中世以降の井手と棚田、海辺には近世以降の干拓、そして沼地には近代の暗渠排水という、二千年の米づくりを支えた先人の英知と情熱による土地利用の広がりがあり、今もこの大地にその姿を留めている。ここに来ればこうした姿を一堂に、しかもコンパクトに見ることができる。加えて、豊かな食やにぎやかな祭りが息づくなど、稲作にかかわる無形の文化も一体的に体感できる。

これはまさに古代から現代までの日本の米作り文化の縮図であり、菊池川流域は日本の米作りの文化的景観とそれによってもたらされた芸能や食文化に出会える稀有な場所なのである。



豊前街道の町並み



五穀豊穰を祈る松囃子



モクズガニのガネめし

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
①	菊池川 <small>きくちがわ</small>	未指定	米作りに必要な肥沃な土と清らかな水をもたらす河川。阿蘇外輪山を源とし、有明海に注ぐ延長 71 k m の 1 級河川。江戸時代を中心にこの地域の物流の大動脈であった。	玉名市 山鹿市 菊池市 和水町
②	菊池川流域の弥生時代の 大集落遺跡群	国史跡 ほか	盛んに米作りが行われ、大規模な集落が菊池川流域各地に営まれた。遺跡からは米作りを示す道具、特に鉄器が数多く発掘されている。	玉名市 山鹿市 菊池市 和水町
③	岩原双子塚古墳・ 江田船山古墳 <small>いわばる</small> <small>えたふなやま</small>	国史跡	米作りで得た財力で築造された古墳。岩原(いわばる)双子塚古墳は当流域で最大規模の前方後円墳。江田船山(えたふなやま)古墳は出土品のほとんどが国宝に指定されている。	山鹿市 和水町
④	菊池川流域の装飾古墳群	国史跡 ほか	米作りの富により繁栄した装飾古墳群。チブサン古墳をはじめ流域の装飾古墳は 117 基を数え、国内一の密度を誇る。	玉名市 山鹿市 菊池市 和水町
⑤	菊池溪谷	未指定	菊池川の源流をなす菊池溪谷は、阿蘇の伏流水が多くミネラル分を含み、下流に肥沃な養分をもたらして、米をはじめ様々な農産物に豊かな恵みをもたらしている。	菊池市
⑥	菊池川流域の条里跡、 区画割 <small>じょうりあと</small> <small>くかくわり</small>	未指定	8 世紀ごろに 1 辺約 109 m 四方 1ha(10,000 m ²)に田が区画された。現在もその区画が残り、米作りが続けられている。	玉名市 山鹿市
⑦	鞠智城跡 <small>きくちじょうあと</small>	国史跡	米を備蓄した古代の軍事補給基地。発掘調査により、大量の炭化米、米倉跡が確認されている。また、当地には扇で日没した太陽を呼び戻して田植えを終えさせた「米原(よなばる)長者伝説」が残る。	菊池市 山鹿市
⑧	御宇田井手 <small>みうたいで</small>	未指定	延長 3 年 (925) 伊勢から下向した御宇田氏が引いたとされる用水路と祭り。この用水路で御宇田(みうた)台地の開田が進んだとされる。	山鹿市

⑨	菊池川流域の灌漑施設 <small>かんがい</small>	未指定	新たな水田に水をひくため、用水路やため池を造った。用水路は井手(いで)と呼ばれ、「原井手(はるいで)」など岩盤を長い距離切り貫いたものもある。大規模なため池は、堤防を石積で築いた。	玉名市 山鹿市 菊池市 和水町
⑩	番所地区の棚田 <small>ばんしょ たなだ</small>	未指定	山鹿市北東部の筑肥山地南側に位置する急峻な斜面を切り開いて造られた棚田。秋にはあぜに彼岸花が咲き誇り、美しい景色に彩りを添える。	山鹿市
⑪	旧玉名干拓施設 <small>きゅうたまなかんたくしせつ</small>	国重文 (建造物)	江戸時代初期の熊本藩主、加藤清正によって本格的に始められた以降、連綿と続けられた干拓の遺構が残る。うち明治中期築造の末広開(すえひろびらき)、明丑開(めいちゅうびらき)、明豊開(めいほうびらき)、大豊開(だいほうびらき)の総延長5.2kmにわたる大規模な干拓施設群が、国指定の重要文化財となっている。	玉名市
⑫	富田式暗渠排水技術 <small>とみたしきあんきょはいすい</small>	未指定	明治時代、菊池市出身の富田甚平(とみたじんぺい)が開発した湿田を乾田化する効率的な排水法。現在も塩化ビニル製の水閘(すいこう)となって利用されている。この技術の導入で、全国の耕地面積、面積あたりの収穫量が増大した。	菊池市ほか
⑬	菊之城跡、赤星舟着場 <small>きくのじょうあと あかほしふなつきば</small>	市指定 (史跡) ほか	中世に安定した当地を行い米作りの発展に寄与した菊池氏の初代則隆が、延久2(1070)年に菊池川のほとりに構えた居館跡と船着場跡。	菊池市
⑭	菊池川の中世河口港関連遺跡群 <small>かこうこう</small>	未指定	中世に安定した当地を行い、米作りの発展に寄与した菊池一族は、右岸の高瀬と左岸の伊倉を整備し、海外貿易の拠点とした。伊倉(いくら)には、紀年銘が明らかな中国人墓としては日本最古の「肥後四位官郭公墓(ひごしいかんかくこうぼ)」や、吉利支丹墓碑など国際色豊かな史跡が残る。	玉名市
⑮	菊池の松囃子 <small>まつばやし</small>	国指定 (無形民俗)	中世に安定した当地を行い米作りの発展に寄与した菊池氏が、懐良親王(かねながしんのう)を迎え年頭の祝儀として行ったことを起源とする芸能。中世の松囃子の一形態を伝えるものとして重要であり、能の変遷過程を知る上でも全国的に貴重。	菊池市

⑯	しょうかんじ きくちござん 正観寺・菊池五山	市指定 (史跡)	中世に開発をすすめた菊池氏の文化の繁栄を偲ばせる寺社。正観寺(しょうかんじ)は15代武光の菩提寺である。また菊池五山は、菊池氏が領内の文教を盛んにするため鎌倉に倣い定めたもので、東福寺、西福寺、南福寺、北福寺、大琳寺の五寺からなる。	菊池市
⑰	きくちがわりゆういき ふなつきば 菊池川下流域の船着場 と港町	市指定 (史跡)	江戸時代に米の積み出しで栄えた高瀬や大浜などの港町があり、高瀬、晒(さらし)、千田川原(せんだがわら)などに俵ころがしと呼ばれる石畳の斜路や石段、石垣など船着場の施設が残る。	玉名市
⑱	おくらあと おちややあと 高瀬御蔵跡・御茶屋跡	市指定 (史跡)	熊本藩の御蔵で、ここに菊池川流域の米が集められ大坂堂島へと運ばれた。毎年20万俵以上が搬出された。西南戦争で焼失したが、蔵の礎石などの遺構が残る。また蔵に隣接して御茶屋を設け、ここに藩の重要施設を集中させた。	玉名市
⑲	やまがゆまち ぶぜんかいどう 山鹿湯町 豊前街道沿いの 歴史的町並み	未指定	街道と菊池川の船着場が交差した山鹿湯町は、江戸時代以降物流の拠点としても繁栄した。今も土蔵造りの建物が並び、往時の繁栄を偲ばせる。米を使った菓子屋、酒造会社、麴屋(こうじや)など歴史のある商店が軒を連ねる。	山鹿市
⑳	菊池川流域の酒造り	未指定	菊池川のおいしい米と水を使って、酒造りが行われた。山鹿には1896年創業の「千代の園(ちよのその)」、和水には1902年創業の「花の香(はなのか)」という造り酒屋が残る。	和木町 山鹿市
㉑	やちよざ 八千代座	国重文 (建造物)	明治43年、米問屋などの旦那衆によって建てられた芝居小屋。現在も歌舞伎公演のほか、市民コンサート開催など地域の文化拠点となっている。	山鹿市
㉒	おおはまとしま ねんきさい 大浜外嶋住吉神社年忌祭	市指定 (無形民俗)	10年から20年毎に行われる豊漁・五穀豊穰(ごこくほうじょう)を祈願する祭。仮装して町中総出で米を積んだ荷車を曳く「米引き」という行事や、神輿を舟に乗せて漕ぎだす「御神幸(ごしんこう)」という行事が行われる。	玉名市
㉓	しちろうじんたいさい 七郎神大祭	未指定	通称「七郎(しちろう)さん」と呼ばれ、五穀豊穰と腰より下の病気に霊験あらたかな神として信仰され、県内外から参拝者が訪れる。4月第1日曜日に大祭が催される。	和木町

②④	ひごかぐら 肥後神楽	市指定 (無形民俗) ほか	五穀豊穰(ごこくほうじょう)を祈り舞われる。4つの市町に52の神楽が伝承されており、それぞれに演目や曲のテンポ、足の運びなどが異なるが、大きくは肥後神楽としてまとめられる。	玉名市 山鹿市 菊池市 和水町
②⑤	ながさか 長坂なれなれなすび踊り	市指定 (無形民俗)	五穀豊穰を祈る意を含むという奉納踊り。起源は室町時代とされる。麻の狩衣()を着た男たちが大太鼓を中心に輪になって踊る。	山鹿市
②⑥	ぎょくしょうじ 玉祥寺このみや踊り	市指定 (無形民俗)	五穀豊穰と地域の安全を願う例祭での踊り。御大将2名の前で、化粧をして女装した男性が太鼓をたたきながら踊る。	菊池市
②⑦	あさご 阿佐古かせいどりうち	未指定	五穀豊穰(ごこくほうじょう)などを願った神事。顔を黒塗りした子どもたちが、集落内の各軒を回り、藁(わら)と粟(あわ)で作ったしめなわを配る。	山鹿市
②⑧	ばいりん やぶさめ 梅林天満宮流鏝馬	県指定 (無形民俗)	秋の大祭に神社で五穀豊穰に感謝して奉納される農村に伝わる流鏝馬(やぶさめ)。梅林(ばいりん)天満宮の本殿、拝殿などは登録有形文化財。	玉名市
②⑨	菊池川流域の雨乞い習俗 (踊り、太鼓、仏像洗い)	市指定 (無形民俗) ほか	降雨を願った神事や風習。山鹿市の宗方万行(むなかたまんぎょう)・小坂(おさか)雨乞い踊り・霜野康平寺の仏像洗い、玉名市の大野下(おおのしも)雨乞い奴踊り、和水町の米渡尾(めどお)のひゅうたん回しなど。	玉名市 山鹿市 菊池市 和水町
③⑩	きくち ふうちんさい 菊池の風鎮祭・ つちあみだ うまつく 土阿弥陀・馬作り	未指定	菊池市内に伝わる米作りの農耕儀礼。風よけのため蓑(みの)と笠(かさ)を田に飾る風鎮祭(ふうちんさい)、苗の活着のため土で仏像を固める土阿弥陀(つちあみだ)、農耕馬の健康祈願のための馬作り(うまつくり)。	菊池市
③⑪	このしろの丸ずし	未指定	菊池川の河口で取れるこのしろ(ニシンの一種で海水魚)を1尾まるまる使った寿司。正月や祝いの席などによく食べられる。	玉名市 山鹿市
③⑫	ガネめし	未指定	秋から冬に食べられる郷土料理。ガネ(川ガニ)の炊き込みご飯。	和水町 山鹿市
③⑬	あかさけ 赤酒	未指定	江戸時代、熊本藩の「お国酒」として作られ、幕府にも献上された酒。保存するため草木灰を入れることで赤く色づく。現在は当地域の正月のお屠蘇(とそ)に欠かせない特別なお酒。	山鹿市

